

会議名	第12回 多様な学習支援事業に関する検討会議
開催日時	平成29年10月27日(金) 14:00~16:00
場所	科学技術学園高等学校 C棟 会議室
出席者	別紙資料
議題等	<p>1.第1分科会研究 学習意欲の回復について</p> <p>2.報告 豊島教務主幹、高橋(佳)教諭、門司教諭</p> <p>3.講演 明治学院大学 元森 絵里子 准教授 15:30~16:20 ～「非主流」後期中等教育を取り巻くジレンマとその時代背景～</p>

学習意欲の回復について

I これまでの取り組み

1. 平成27年度活動報告
2. 平成28年度活動報告

II 今回の報告

- ① 自主的・主体的に取り組んだ行事について
 - ・体育祭
 - ・文化祭
- ② 学習意欲の回復
 - ・プレゼンテーション
 - ・総合基礎

科学技術学園高等学校 第1分科会

I-1. 平成27年度 活動報告(1) H27 8.5

定時制課程について—定時制課程の生徒像—
※「研究収録 I」p.12～p.15参照

- ① 生徒募集活動における5つの柱
- ② 学習に関する意識調査(1年生)
- ③ 入学生の学力
- ④ 本校生徒のタイプ分け

I-1. 平成27年度 活動報告(2) H27 11.9

「学習に対する意欲を回復」させるための
取り組み
※「研究収録 I」p.22～p.23参照

- ① 教材・教具の工夫 —タブレット端末—
- ② 学校内活動の再確認(4分野11項目)

I-1. 平成27年度 活動報告(3) H27 12.18

研究授業
※「研究収録 I」p.28～p.33参照

- ① タブレットと電子黒板を組み合わせた、
数名のグループ学習による双方向授業
の実践(数学科)
- ② 生徒の興味・関心を高める授業の工夫
(理科)

I-1. 平成27年度 活動報告(4) H28 2.26

学習意欲の回復に向けて
※「研究収録 I」p.39～p.43参照

- ① 少人数または個別での学習活動及び
課外活動の実践
- ② 次年度実施項目とその課題・問題点

I-2. 平成28年度 活動報告(1) H29 3.4

学校生活全般を通して生徒に意欲を持たせる
ための項目の実践及び検討

- ① 「習い事クラブ」
少人数指導で特化した能力を育てる習い事
クラブを増やし、活性化させる。
・「英語クラブ」→英語検定準1級合格(H28 10)
・「ICTクラブ」→H29 10月開設

I-2. 平成28年度 活動報告(2) H29 3.4

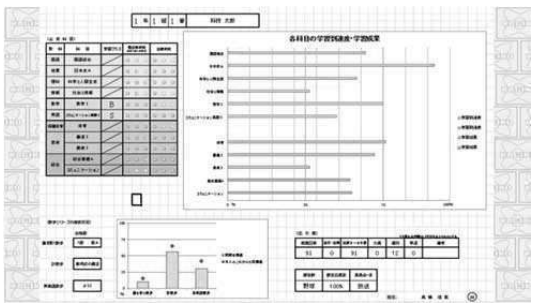
② 「学校行事」 H29 3.4

体育祭、文化祭、修学旅行などの行事について、準備段階から生徒グループにコミットさせ、
今年度の行事に関する報告を致しません。
行事の在り方について—生徒の主体性を大切にした体育祭—

I-2. 平成28年度 活動報告(3) H29 3.13

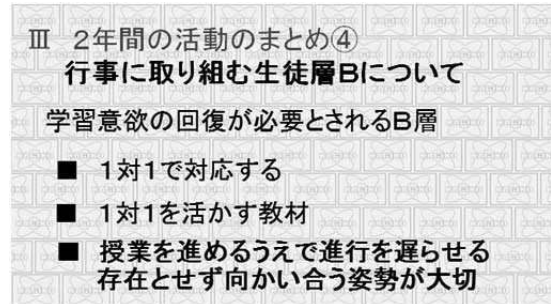
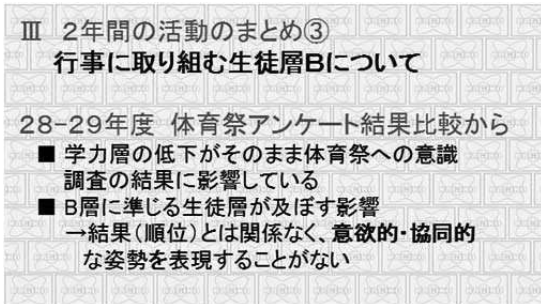
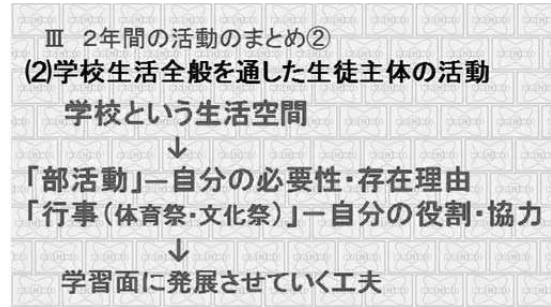
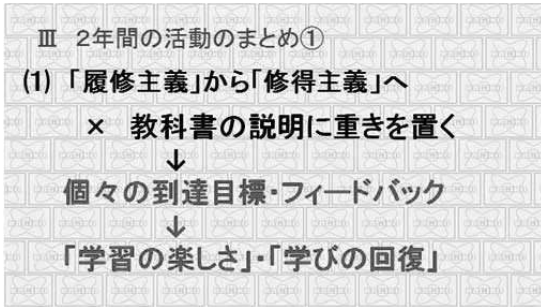
③ 評価方法の工夫

「やる気」を起こさせる評価方法、学習の成果や結果の伝え方について研究する。
前提として、定期試験のあり方、評価の仕方
や成績の付け方等についても、併せて検討
する。
・「学習意欲回復のための評価について」



II 今回の報告

- 1 行事の取り組みについて
 - ・体育祭
 - ・文化祭
 - ・修学旅行
- 2 学習について
 - ・プレゼンテーション
 - ・総合基礎



生徒の主体性を大切にした体育祭

多様な学習者支援事業に関する検討会議



ポスターデザイン2年 岡田 京之

具体的な取り組み

1. クラス委員による整列
 2. クラスオリジナルTシャツの作製
 3. 生徒の手によるダンスパフォーマンス
 4. 生徒主導の裏方業務
 5. 生徒による新種目の考案(騎馬戦)
- その他 ポスター、パンフレットの作製

生徒が主役

(従来の体育祭)
教師がすべて計画、準備し、生徒にやらせていた。



(昨年度からの体育祭)
生徒が計画、準備に関わり、生徒が主体的にパフォーマンスする！

そして…行事で培った「主体性」を「学習意欲」に転化させたい。

検証1 クラス委員による整列



(従来)教師が半ば叱りつけるように整列させていた。

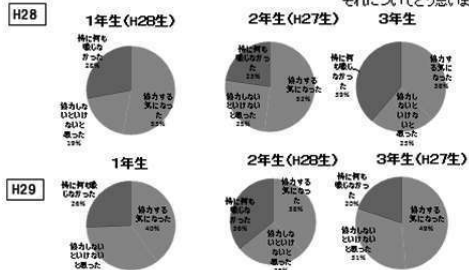


(現在)生徒主導で整列できるようになってきた

自主性を引き出す

検証1 クラス委員による整列

Q.開閉会式で先生の代わりにクラス委員の代表が「整列」を担当しましたが、それについてどう思いましたか。



・今年度の1年生は「その気度」が高い。
・現2、3年生の「その気度」は維持されている。
・昨年度3年生の「その気度」はやや低め。

生徒の声・1

特に充実感を覚えたところ

2年連続で招集係をつとめ、先輩後輩のつながりの中で充実感を覚えました。

2年生は学年種目のほとんどを取りました。「心をひとつ」を実現できました。

騎馬戦と綱引きで学年一丸となることができました。

騎馬戦では皆が気合十分で、全力で取り組むことができました。

騎技部注意を担当しました。もともと人前で話すのは苦手なのですが、練習の成果を発揮して、充実感を覚えました。



生徒の声・2

自分が成長できたところ

先輩たちから勇気もらいました。

中学時代の面倒臭がりから卒業できました。

放送委員長の私が抜けても後輩がしっかりとやり過ぎてくれた。

我々2年生は昨年度の1~3位独占から1~5位独占へと実力を上げました。

昨年は盛り上がり欠けると思いましたが、盛り上げるのは自分自身であることに気づきました。

中学時代まやらかしている感があったけど、高校ではクラスの「勝つ気」を感じて頑張れました。



先生方の声

アンケート結果を突き詰めてみると・・・

1. 日頃からの指導を大切に。
2. 教師がお手本になる。
3. 生徒を信じて任せてみる。

次年度以降へ向けて

「日頃からの指導を大切に。」



行事単体で効果を上げるのは難しいのではないかと？



常に生徒がアクティブに活動している状態を作り出す必要がある。

日頃の教育活動(授業、部活、HR)の点検、行事相互の関係の工夫が必要。

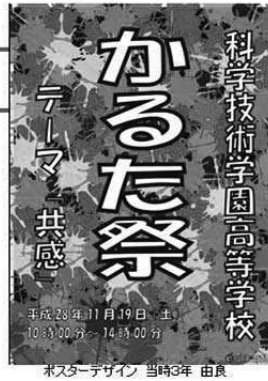
生徒の主体性を引き出す行事配置(例)

4月~6月 スタートダッシュ期		6月 学習	7月~8月 部活動充実期		9月 学習	10月~12月 文化的行事期	
1年 赤城	体育祭	学習 定期 試験	1年 アート教室	2年 読書教室	1年 読書部フェスティバル	2年 読書部 部活動対	文化祭
2年 ミニ合宿			3年 進路活動				
3年 進路合宿							
運動部 春季大会	IH予選	運動部 合同合宿	文化祭文化祭準備	運動部 新人戦	文化祭 文化祭		

学年前半期に、生徒のアクティブな活動を促す。

生徒の主体性を
大切にした文化祭

多様な学習支援施策事業に関する検討会議



第一分科会 報告より

学校生活全般を通じた生徒主体の活動

↓
「行事(文化祭など)」—自分の役割・協力

生徒が計画・準備に関わり、
生徒が主体的にパフォーマンスする！

↓
学習面に発展させていく工夫

2年前までの行事の取り組み

教員主導で行事を運営



- ・受け身な態度
(言われないと動けない)
- ・目的からの乖離
(誰のための行事かわからない)

昨年度の取り組み

生徒主体への移行

・生徒主体型への移行を行うことで、
生徒が自ら考え、行動できる内容が広がった。

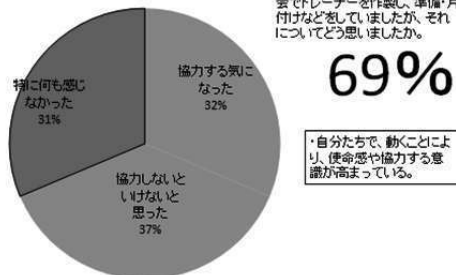
- ①実行委員着用トレーナー
- ②物品納品確認・広報活動等
⇒生徒運営意識の向上
⇒主体的に考え、行動する生徒が増加



H28アンケート集計結果より

1. 生徒会と実行委員会のトレーナー

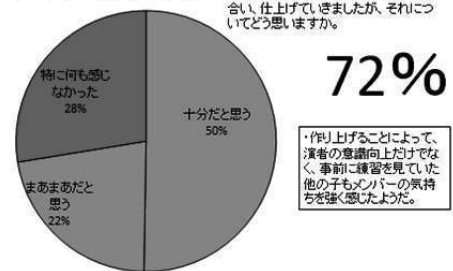
今回、生徒会と文化祭実行委員会
でトレーナーを制作し、準備・片
付けなどを担当していましたが、それ
についてどう思いましたか。



H28アンケート集計結果より

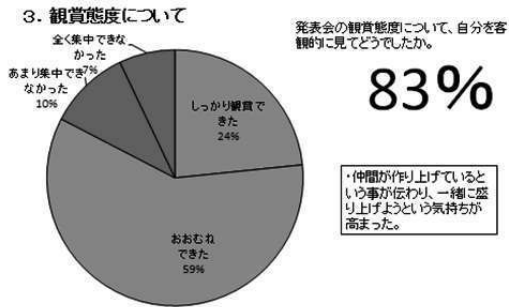
2. パフォーマンスについて

今回のダンスパフォーマンスは、体育祭
に引き継ぎ、メンバーが自分たちで話し
合い、仕上げてきましたが、それにつ
いてどう思いますか。

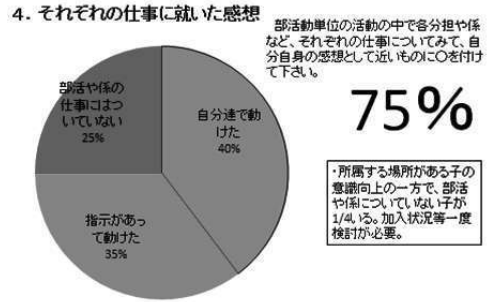


・作り上げることによって、
演者の意識向上だけでなく、
事前に練習を見ていた
他の子もメンバーの気持ち
を強く感じたようだ。

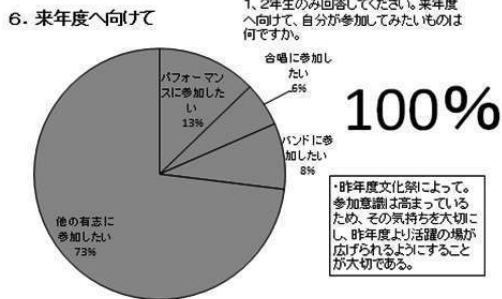
H28アンケート集計結果より



H28アンケート集計結果より



H28アンケート集計結果より



生徒の声・1



生徒の声・2



今年度 文化祭に向けて①

前年度 文化祭実行委員をはじめ

やる気アップ

今年度

さらに生徒主体となって活躍できる

場所・場面を増やしていく。

- 実行委員主催の被災地域へのチャリティ活動
- 演奏場の拡大 ～三味線演奏～

今年度 文化祭に向けて②

より詳しく知るために

アンケートの精査・実施

(例)

- 文化祭でどのような活動をしていたか。
- 何か変わったことは
さらにどのように変わったか

などを、記述、YES・NO、などの聞き方も含め詳細のデータを取ることで、さらなる分析・研究をする

平成29年度 修学旅行について

国内旅行のコンセプト

テーマ領域



平成29年度の修学旅行

沖縄コース 118名参加

瀬戸内コース 44名参加

語学研修コース(ハワイ) 15名参加

これまでの修学旅行の課題(沖縄)

- 団体旅行のイメージ



- 事前学習の成果が生かせない
- 緊張感がなくなる
- 学習効果は…

国内旅行のコンセプト

- 小グループによる活動

- 事前学習を充実させる

- 生徒が主体性を発揮できる活動

現地での学習活動を充実



沖縄本島

◎ 現場となった沖縄の史跡を見学することで、平和の大切さを考える。
◎ 沖縄の豊かな自然の中での活動を通して、環境問題を考える。
◎ 伝統的な琉球文化に触れ、文化の多様性について考える。

- 4グループ・4コース別動で修学
- 旅行日程を分ける

Aグループ	10月24日(火)～27日(金)	JAL
Bグループ	10月24日(火)～27日(金)	ANA
Cグループ	10月25日(水)～28日(土)	JAL
Dグループ	10月25日(水)～28日(土)	ANA

※1グループの想定約40名

沖縄本島

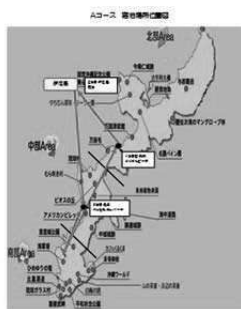
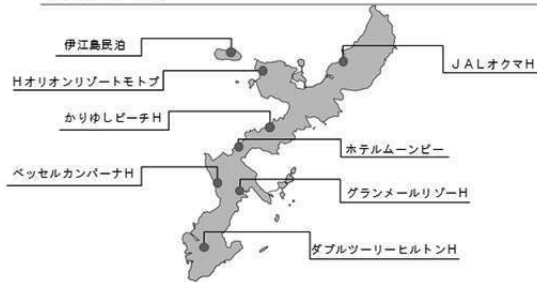
◎ 現場となった沖縄の史跡を見学することで、平和の大切さを考える。
◎ 沖縄の豊かな自然の中での活動を通して、環境問題を考える。
◎ 伝統的な琉球文化に触れ、文化の多様性について考える。

- 宿泊地：7ホテル＋民泊

かりゆしビーチホテル(恩納村)	伊江島民泊(伊江島)
ベッセルカンパニーホテル(北谷)	ホテルムーンビーチ(恩納村)
グランメーラーリゾート沖縄(沖縄市)	ホテルオリオンモトリゾート&スパ(本部)
ダブルツリーヒルトン(那覇)	JALプライベートリゾートオクマ

をポイントにコース設定

沖縄本島



沖縄本島

▪各グループもさらに少人数班で活動

- ①タクシー利用による生徒企画研修コース
- ②自然体験・文化体験での班分け
- ③農業体験・民泊での振り分け



沖縄本島

▪現地大学生との連携～平和教育

- ①修学旅行生と同行して現地で案内
- ②平和講演（基地の現状と平和など）、意見交流
- ③各種体験サポート



現在作成中・・・
夏の事前授業後の意識調査について

① 平和祈念公園・沖縄県平和祈念資料館	② 基地のある日常（普天間基地）について 嘉数高台公園 散策	③ 比地大滝 トレッキングツアー（2時間）	④ 伊江島民泊
⑤ マリンスポーツ体験：サンゴ再生プロジェクト	⑥ マングローブ 観察&カヤック	⑦ 美ら海水族館	⑧ 琉球村（沖縄テーマパーク）
⑨ むら咲き村（沖縄テーマパーク）	⑩ おきなわワールド（沖縄テーマパーク）	⑪ 那覇市内 タクシー研修	⑫ 道の駅かてな
⑬ 首里城	⑭ 今帰仁城跡	⑮ ガンガラーの谷ツアー	⑯ 国際通り 班別研修

沖縄本島 事前学習

▪①夏のセミナー・直前セミナー開催

琉球新報記者による講演
戦争体験取材・基地問題取材をもと
見識者（大学教授）などによる「沖縄の現状」講演

▪②従来の教科による学習、朝の学習



- ポイントごとにバスガイドに替わって現地でのガイドを計画
- プレゼンテーション(1単位)にてグループ発表

プレゼンテーション

科学技術学園高等学校

学習目標

伝えたいテーマをシンプルにわかりやすく（印象深く）説明できるようになる

情報を的確に伝えられるようになる

わかりやすい資料（音声・映像・スライド等）を作成できるようになる

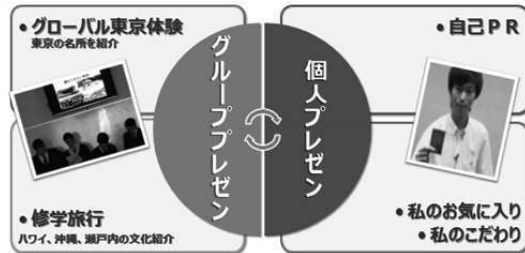
自己PRができるようになる



年間指導計画

4月	導入 「グローバル東京体験プレゼン」準備	グローバル東京体験 プレゼン
5月	「グローバル東京体験プレゼン」準備・発表	
6月	「個人プレゼン」 & 「修学旅行プレゼン」 準備・発表	修学旅行プレゼン
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

学習活動 実習を主体に、グループプレゼンと個人プレゼンを実施



修学旅行の事前指導の形の変化



①準備・構成

- プレゼンのテーマを決める
- テーマの情報集め・まとめる
- ストーリーをつくる（原稿作り）



②デザイン

- スライドを作成する
- 資料を作成する

※パワーポイントで、わかりやすくスライドにまとめる
※文字の情報量を少なくする



③撮影

- カメラを目の前にして、作成したスライドと、原稿を読み合わせて、撮影をする。



教員の声

生徒が情報の整理・メッセージの明確化に向き合えた。

パワーポイントで興味を引くスライドを作成する生徒が多かった。

生徒が意欲的に取り組み、全員プレゼンを実施できた。

課題

発表練習の不足による発表力（話し方）向上が不十分

オリジナル画像の不足
ウィキペディア等解説の引用

修学旅行テーマの自由化

次年度に向けて

個別指導体制の充実

タブレットの有効活用

指導計画の徹底
個別指導体制の充実

平成29年度 総合基礎A

5年目を迎え、
この2年で完成形へ

1学年の時間割

	月	火	水	木	金
1時間目～6時間目	コミュニケーション	EC-I	国際総合	科学と人間生活	総合基礎学習HR
	日本史A	書道I	社会と情報	国際総合	EC-I
	芸術 (美術・音楽)	日本史A	書道	社会と情報	コミュニケーション 演習
	芸術 (美術・音楽)	国際総合	国際総合	総合基礎CAT	数学I
	EC-I	総合基礎英語	数学I	数学I	科学と人間生活
	体育	総合基礎数学	体育	総合基礎数学	LHR

自分の位置を確認

4月
到達度別テスト
基礎力診断テスト
散歩など

目的

- (1) 学習意欲の回復とともに英語・数学の基礎学力の定着を図る
⇒ くりかえし学習
- (2) 生徒一人ひとりの学習形態・方法の模索
⇒ アドバイスの必要があれば・一斉授業展開
- (3) 教科横断的な学習課題の作成と実践
⇒ 各学年で試行錯誤的に実施

- (1) 学習意欲の回復とともに英語・数学の基礎学力の定着を図る
⇒ コースを自ら選び、自ら学習教材を選ぶ基礎的レベルのコースはTTを実践
- (2) 生徒一人ひとりの学習形態・方法の模索
⇒ 担任との面談の徹底化と目標設定
- (3) 教科横断的な学習課題の作成と実践
⇒ 総合基礎HR・CATにおける教材作成

総合基礎Aの構成 (5単位)

1. 総合基礎 数学・英語
2. 総合基礎CAT
3. 総合基礎HR

4月オリエンテーション 到達度試験 数学

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
足し算	引き算	かけ算	わり算	四則演算	小数の加法・減法	小数の加法・減法	分数の加法・減法	分数の加法・減法	正負の数の加法・減法	正負の数の加法・減法	異数の計算	いろいろな計算	単項式の加法・減法	同項式の整理	分配法則	乗法公式	差因数分解	共通因数のくり出し	因数分解	分数の有理化	√を含む式の加法・減法	√を含む式の加法・減法	√を含む式の計算	√を含む式の計算



4月オリエンテーション 到達度試験 英語

動詞	5文型	進行形	助動詞	動名詞
動詞の活用	疑問詞を用いた作文	文の形	助動詞の位置	不定詞・動名詞の使い分け
動詞一般動詞	文の語順	文の長さ理解	意味の種類	作文
動詞/動詞	意味と文脈			
動詞/動詞	疑問詞を用いた作文			



1. 総合基礎英語と数学

2クラス（70名）を3クラスに分ける

- BASIC
- STANDARD
- CHALLENGE

自分で行きたいコースを選択

語彙クイズ



2. CAT

Computerized Adaptive Testing
(コンピュータ適応型テスト)

パソコン室102・105 教室

読解表現・音声による英会話



- CAT
- 教材は教科横断的、または日常生活からフィードバックした内容
- e-ライブラリー（コンピュータ教材）

チームティーチング

生徒との担任による個別面談

総合基礎 CATの学習教材

※教材は1冊1冊の単元を構成しています。また、別冊で学習指導要領を掲載しています。
※英語以外の学習も積極的に活用しています。

単元名	レベル	教材名
英語の基礎	レベル1	英語の基礎1
英語の基礎	レベル2	英語の基礎2
英語の基礎	レベル3	英語の基礎3
英語の基礎	レベル4	英語の基礎4
英語の基礎	レベル5	英語の基礎5
英語の基礎	レベル6	英語の基礎6
英語の基礎	レベル7	英語の基礎7
英語の基礎	レベル8	英語の基礎8
英語の基礎	レベル9	英語の基礎9
英語の基礎	レベル10	英語の基礎10
英語の基礎	レベル11	英語の基礎11
英語の基礎	レベル12	英語の基礎12
英語の基礎	レベル13	英語の基礎13
英語の基礎	レベル14	英語の基礎14
英語の基礎	レベル15	英語の基礎15
英語の基礎	レベル16	英語の基礎16
英語の基礎	レベル17	英語の基礎17
英語の基礎	レベル18	英語の基礎18
英語の基礎	レベル19	英語の基礎19
英語の基礎	レベル20	英語の基礎20
英語の基礎	レベル21	英語の基礎21
英語の基礎	レベル22	英語の基礎22
英語の基礎	レベル23	英語の基礎23
英語の基礎	レベル24	英語の基礎24
英語の基礎	レベル25	英語の基礎25
英語の基礎	レベル26	英語の基礎26
英語の基礎	レベル27	英語の基礎27
英語の基礎	レベル28	英語の基礎28
英語の基礎	レベル29	英語の基礎29
英語の基礎	レベル30	英語の基礎30
英語の基礎	レベル31	英語の基礎31
英語の基礎	レベル32	英語の基礎32
英語の基礎	レベル33	英語の基礎33
英語の基礎	レベル34	英語の基礎34
英語の基礎	レベル35	英語の基礎35
英語の基礎	レベル36	英語の基礎36
英語の基礎	レベル37	英語の基礎37
英語の基礎	レベル38	英語の基礎38
英語の基礎	レベル39	英語の基礎39
英語の基礎	レベル40	英語の基礎40
英語の基礎	レベル41	英語の基礎41
英語の基礎	レベル42	英語の基礎42
英語の基礎	レベル43	英語の基礎43
英語の基礎	レベル44	英語の基礎44
英語の基礎	レベル45	英語の基礎45
英語の基礎	レベル46	英語の基礎46
英語の基礎	レベル47	英語の基礎47
英語の基礎	レベル48	英語の基礎48
英語の基礎	レベル49	英語の基礎49
英語の基礎	レベル50	英語の基礎50

3. 総合基礎HR

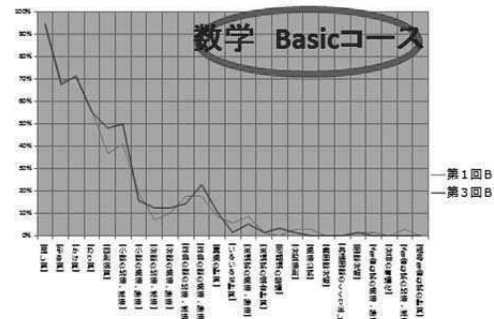
■教材に取り組ませておき、個別面談を強化・実施

■教材は教科横断的、または日常生活からフィードバックした内容



平成28年度1年生学習到達度[%]
(数学)

	第1回 4月	第3回 3月
チャレンジクラス	67	73
スタンダードクラス	40	47
ベーシッククラス	19	20



平成28年度1年生学習到達度[%]
(英語)

	第1回	第3回
チャレンジクラス	45	51
スタンダードクラス	30	34
ベーシッククラス	15	28

Q 1年間を終えて感想を聞かせてください。

- 5 学習に興味をわき、さらに高いレベルのものをやりたいと思う。
- 4 自分で選んだ教材(プリント・Eライブラリー・CAT)を、無理なく楽しめている。
- 3 普段の授業よりも、何となく取り組みやすい。
- 2 何かやらなければならないので、一応やっている。
- 1 何のためにやっているのか、わからない。

図1 平成27-28年度 総合基礎A CAT (n=169)



図2 平成27-28年度 総合基礎A数学 (n=169)





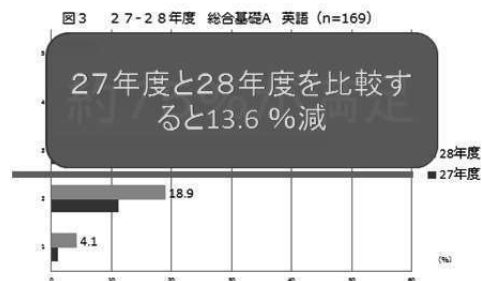
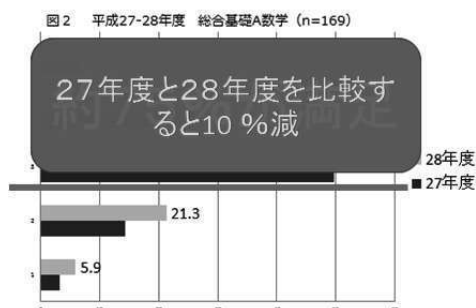
問題点 不満に対するの対応

- 「回答2 一斉授業がいい (英語18.9%、数学21.3%)」
- 「回答1 何のためにやっているかわからない (英語4.1%、数学5.9%)」

20~25%の不満足層への対応
Basicクラス??

次年度に向けて

- ① 1学年と英語・数学の担当と顔を合わせてミーティングを持ち、対策を重ねること
- ② 教材プリントに関して工夫し、量を増やし時間内に、飽きのこない内容にする
- ③ 自学自習の方法にとらわれない。時には一斉授業を行い、講義を通して授業に対する姿勢を養う



B層のアンケート結果 (数学Basicベーシック)

- 積極的

本校生徒のタイプ

タイプA ... 基礎的な事項を理解していて学習面で可能性を持っている生徒

タイプB ... 本校の中では比較的活発な生徒で、生活でいい指導が必要な生徒

タイプC ... 不登校経験のある生徒やコミュニケーションが苦手な生徒など、精神面でいい指導が必要な生徒